



P1A



P1B

写真：
 P1A・南東方向より航空撮影
 P1B・校舎の新しいシンボルの時計と校名表示
 P1C・校門と正面玄関
 P1D・校庭側昇降口

新校舎が完成！

新らしい石神井高が生まれました。



計画段階から5年の歳月をかけて、我が母校石神井高等学校の校舎が生まれ変わりました。いわゆる都立高校のイメージとは違う明るく綺麗な新校舎。しかし、東西にならぶ教室とそれを中央で繋ぐ南北の廊下は、旧校舎（2代目）のイメージを強く残していると感じられます。新しい校舎では、すでに新しい“石神井生のハイスクールライフ”が始まっています。

石神井高校同窓会誌
 「きずな」 第57号
 平成20年5月
 発行
 石神井高校同窓会

今年同窓会総会は
6月14日(土)

定期総会のお知らせ

同窓会規約第18条に基づき2008年度の定期総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内申し上げます。

2008年5月20日 同窓会会長 城 和裕

記

日時 2008年6月14日(土)午後1時30分から
 場所 母校視聴覚教室
 議題 本誌 頁以下に掲載

なお、この総会におきましては、通常議案(事業報告・計画、決算、予算)のほか、第5号議案として「教育支援基金」設立に関する件を提案しております。

本件は、同窓会が母校の教育活動を支援するための基金を設立し、卒業生および母校関係の皆さまに資金の拠出を仰ごうとするものであります。設立趣意および基金の概要は議案の中に記載してありますので、ご高覧の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。



P1C



P1D



新しい標準服ができました！

最近のトレンドに沿った新しい標準服。おしゃれでカワイイとなかなか評判です。



視聴覚教室後方から (P2A)



視聴覚教室前方から (P2B)



校門から北校舎(P2C)



校舎西側 (P2D)

新校舎点景



中央廊下ホール (P2F)



校門内側から北校舎 (P2G)

校舎南側通路 (P2E)



屋上緑化 (P2H)



屋上よりプールを望む (P2J)



南校舎4F中央ホールより東を望む (P2K)



玄関前広場 (P2L)



玄関前正面 (P2M)



2F中央ホールより体育館を望む (P2N)



3Fテラス (P2P)



視聴覚教室前 (P2Q)



玄関前広場 (P2R)



玄関入り口 (P2S)

新しい校舎を見上げてみると・・・新校舎雑感

※文中の番号は参照写真番号（P2C：2ページ写真C）

正門の位置は以前とほぼ同じ位置にあります(P1A)。したがって、以前の校門の脇にそびえていた木はそのままです(P2C)。しかし、その門に入って見て感じるのは、4階建ての校舎の高さ(P2M)です。



西側エントランス (P3A)

建物が高くなった反面、玄関前は赤いレンガタイルが引きつめられた広い空間になっています。この木立はかつての校舎の玄関右側、事務室の脇の木立がそのまま残っています(P2R)。

校舎に入ると、グリーンとクリーム色を基調とした明るく綺麗なインテリアで、地方の新設大学のような印象を覚えます。



中央廊下・北方向 (P3B)

ただ、確かに新しい校舎なのですが、なんとなくこれまでの旧校舎に近い感触が随所に見られます。採光を考えて、教室が東西に並び北側に廊下があること(P2K)。そしてその校舎を南北に廊下が結んでいて(P3B)、南に進むと体育館に行く経路(P2N)は、そのまんまという感じです。4階になった分、3列だった教室棟が2列になりましたが、中央廊下の窓から見える風景は、以前の校舎とおなじです(P3C)。

体育関連施設が従来のままなのでそう感じるのですが、校舎の南側と体育館の間の通路は、昨年までの仮設校舎への通学路の光景とそっくりです(P2E)。

しかし、校舎の構造で一番変わったのは校舎の西側、以前は自転車置き場などがあったあたり。校庭に向けての裏玄関のような出入り口ができました(P3A,P2D)。そのほか、屋上緑化のスペース (P3H)があったり、3階オープンテラス(P2P)、校舎を南北に結ぶ廊下にホールスペースのベンチ(P2F)がもうけられていたり、階段形式の視聴覚教室(P2A,B)や寄木細工風の壁をもつその入り口ホール(P2Q)は、大学かどこかのホールのエントランスのようです。また一世代上の卒業生から見ると、まさに夥しい数の自転車を収容できる自転車置き場 (P3D)など、今の時代の学校が必要とする機能やキャンパティには余裕がある感じがします。もちろん冷暖房は完備とのこと。きれいな階段ホール



中央廊下より東方向
かつての仮正門 (P3C)

や昇降口、そして玄関前の広場を見下ろす時計は、未来の同窓生を見守る新しいシンボルになっていくでしょう。



自転車置き場 (P3D)

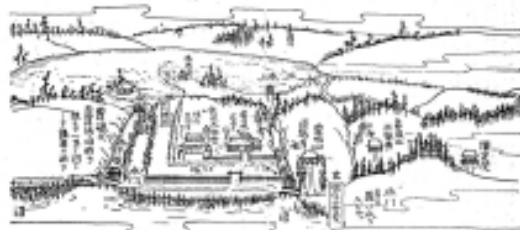
校舎撮影は、2007年10月25日及び12月2日、8日に撮影しました。



石神井・関町の歴史

本同窓会の元同窓会長である高橋勇さん（中2回より、本校近辺の「石神井 関町の歴史」という原稿をお寄せいただきました。太古・有史前から現代に至るまで、本校のすぐ近くにお住まいになり、また地元の郷土史にも詳しいお立場ならではのご寄稿で、大変おもしろく拝見したのですが、原稿用紙25枚以上にもなるスケールで、本誌「きずなにちよつと入りきれない恨みがありました。ご寄稿時に適宜ダイジェストしてというお話だったので、豊富な資料を引用した研究資料はやはり全文をお読み頂かなくては意味がないと思い、インターネットの同窓会サーバーに全文をアップいたしました。母校周辺地域の歴史などに興味をお持ちの方は、ぜひご参照下さい。

掲載アドレス <http://www.shakujii-club.gr.jp/contents/08rekisi.pdf>



ご挨拶

同窓会会長 城 和裕 (高12回)



昨年6月に前会長の林 弘先輩(中2回)から引継ぎを受け、1年が経とうとしております。

さて、この1年の間には母校新校舎落成という慶事があり、昨年2月2日日本会主催でその完成祝賀会を華やかに挙

げたことは、まことに喜ばしいことでありました。

少子化と都の財政事情の影響で多数の都立高校が存亡の危機に立たされています。そんな中になら、三代目となる校舎が誕生したのですから、これを母校発展の契機としていかなければなりません。本会としても、いろいろな側面から協力してまいりたいと考えております。

そこで、今年度は初めての試みとして、他校同窓会との連携を深め情報交換などを活発に実施することとしました。次に、今やユニークな存在となった長野県白馬村の『黒菱山荘』を在校生諸君や教職員の方々に一層活用していただきたく、そのための諸行事を計画しております。

また、これは今総会でご承認いただいた上でのことではありますが、「教育支援基金」を設立し、集められた資金をもって母校の教育活動を支援することとしたいと考えております。ぜひとも、関係の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、本会会員各位のご健勝を祈念し、ご挨拶いたします。

心も体もパワフルあんどパステル・・・

経営企画室長 重田 美奈子

石神井高校に参りまして3年目を迎えました。この間同窓会の多くの皆様と交流させていただき、同窓会の層の厚さを感じています。ぜひ皆様の母校を今後とも暖かい目で応援してください。そして教育活動等支援のための寄付行為事業についても今年度は元年としてスタートさせましょう。我々教職員は常にいろいろ企画案を持っています。いつもパワフルに動く力を持っています。

その支援をどうぞよろしく願いいたします。

【標準服の完成】

石神井高校の伝統・知性・品位が結集された標準服が完成いたしました。誰が着用してもそのスッキリしたラインはそれなりに美しく映えることと思います。標準服は生徒の意向なども取り入れ、シングル3つボタンのブレザーで、胸に石神井の校章をデザインしたエンブレムのついたしゃれた標準服です。学校説明会でも紹介しましたが、中学生や保護者からは好評でなんと新生生の約8割が購入しました。学校の雰囲気も変わってくるものと思います。きっと地域の方々にさらに愛される石神井高校生になることで

しょう。

【グラウンド整備工事について】

新校舎の完成及び体育館の大改修は終了しましたが、グラウンドの整備工事が6月から始まります。今回は東京都事業に基づき校庭の一部芝生化も併せて実施される予定です。全てが完成しますとほんとうにすばらしい学校になります。ご期待ください。工事は半年以上かかるものと思いますが、完成までの期間は部活動場所の確保がまた問題になります。部活動で使用できるグラウンドやテニスコート等をご紹介いただければ大変助かりますので皆様の幅広い人脈・情報網で近隣の施設情報を何卒よろしく願いいたします。

【最後に】

心も体も健康でいなければ・・・とは思っていますが、年齢を重ねて健康診断を受けるたびにひっかかる項目が増えてきてガッカリしています。が、立ち直りも早いし、物忘れも多いので、なんとかがんばれます。目指すは「パワフルに行動しさわやかなパステルカラーの心を持つ」です。

広がる「きずな」

学校長 福本 雄吉



同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。石神井に参りまして4年目を迎えましたが、おかげさまで年ごとに同窓会との「きずな」が強まり、広がっていると感じています。城会長、林

前会長をはじめ役員皆様方のご理解ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

【新校舎お披露目及び記念祝賀会】

二年半ほどかかりました待望の新校舎が今年の11月末に完成しました。これを契機に募集対策を含めて生徒出身中学校の校長先生やPTA会長、日ごろお世話になっています旧三学区等の高校長とPTA会長、また地元町会長や役員の皆様方、教育委員会などをお招きし、新校舎の披露と記念の祝賀会を開催したいと同窓会役員の皆様方にご協力をお願いいたしましたところ、ご快諾をいただき、たいへんうれしく思いました。

その後、PTAにも協力を願い、同窓会・PTA・学校側と三者が揃って定例的に準備委員会を開催し、昨年12月2日に挙行することができました。

おかげさまで当日は天候にも恵まれ、小春日和の中、大勢の同窓生の参加やご来賓をお迎えし、無事お披露目と記念祝賀会を終了することができました。披露宴は和やかな雰囲気のもとに進行し、新校舎の写真入りの図書カードも記念品として同窓会にご用意していただき、立派なお披露目及び記念祝賀会となりました。

参加された方々から好評をいただきました。改めて深く感謝申し上げます。石神井高校の宣伝にも大いに貢献したことだと思います。

【入試倍率の向上】

この新校舎落成と企画室長から紹介がありますが、標準服の制定、また土曜日授業や語学研修の実施など新しい魅力づくりの結果、1月末や2月に行われました入学選抜においては、従来になく高い倍率となりました。生徒の質も良い方向に変化するものと大いに期待しているところです。

【同窓生二人目の教諭】

昨年度の泉水教諭に引き続き、昭和62年に卒業しました広瀬由貴（ひろせよしたか）教諭・英語科が今年度から着任いたしました。若い力を発揮してもらい、母校の発展充実に貢献してほしいものと期待しています。同窓会にとっても力強い人材になれば有り難いものと思います。これによって、学校と同窓会とのきずながさらに広がり強まることも願っています。

【アラカルト】

副校長から紹介がありますが、昨年、都庁展望室で行った石神井高校単独の展示会には、会長をはじめ同窓生の方々に来ていただきましてありがとうございました。御礼申し上げます。

また、東京校歌祭にも三年連続参加しました。それを契機にある同期会に招かれ、石神井高校の現況報告などもさせていただき、きずなの広がりを感じました。もっともっと大勢の同窓生の方が参集なさればいいのになあと思いました。今年はお仲間を誘い合っでご参加ください。

ところで、最後に、昨年来、同窓会にご依頼しています教育活動等支援のための寄付行為事業について、今年度はぜひ具体的に取り組んでいただければ幸いです。皆様方母校の発展充実のために、全会員の方からのご芳志を賜ればたいへん有り難く、幸甚に思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

（第5号議案 都立石神井高等学校『教育支援基金』設立に関する件）

本会の目的である母校の発展に寄与する事業として、以下の通り『教育支援基金』を設立することとしたい。

『教育支援基金』設立趣意書

我が母校は明後年に創立70周年という節目を迎える。戦中、戦後の苛烈な時期を経て今日に至る70年の風雪の中、母校は数多の人材を輩出し、これらの卒業生が各分野で優れた業績を挙げていることは、万人の認めるところである。

折しも、この節目に合わせた如く、校舎の全面改築工事が完了し、三代目となる新校舎が誕生した。我々同窓生は現役生徒諸君および学校関係者と共に、この慶事を喜ぶたい。

ついては、この機会をとらえ、同窓会は伝統ある母校の名声を一層高からしめるため、『教育支援基金』事業を発起することとした。この基金は、在校生の基礎的な学力と体力の涵養に資することを基本理念とし、学校現場で行なわれる様々な教育活動を側面から援助することを目的とする。

現下の厳しい経済環境と多様化した価値観の下で、基金の造成・運営には多大の困難が予想されるが、この事業が所期の成果を挙げるよう、本校卒業生および関係各位のご理解とご協力を切にお願いする次第である。

『教育支援基金』(以下「基金」と略称)の概要

1 基金の募集

上記の趣旨を実現するため、以下のとおり基金を募集する。

- ① 目標額 3,000万円
- ② 募集期間 2011年(平成23年)3月31日まで
- ③ 募集単位 一口千円とし何口でも可
- ④ 募集対象 本校卒業生ならびにその家族、在校生の家族、教職員、旧職員、その他本校に縁故のある方々。

2 基金の運営管理

基金の使用および管理のため、以下の措置を講ずるものとする。

①「運営管理委員会」の設置

同窓会会長、副会長および校長、副校長、経営企画室長をもって構成し、基金の使途の決定と管理を行なう。

②資金管理のための特別会計の設置

ア 拠出を受けた資金を管理するため、同窓会に「基金特別会計」を設置する。基金特別会計は他の会計と切り離し、資金の目的外使用を禁止することはもとより、他の会計との流用、混用を防止する措置を講ずることとする。

イ 基金特別会計の収支を明らかにするため、特定の金融機関に『石神井高校同窓会教育支援基金』名義の預金口座を開設する。

ウ 基金への拠出金は、原則として前項の預金口座への振込みによって受入れることとする。

エ 基金は目的外に使用してはならない。また、将来的に追加負担が生じるおそれのある支出は行わないものとする。

オ 透明性維持の観点から、運営管理に要する経費を基金から支出してはならないこととする。この規定の遵守を確保するため、同窓会の一般会計の支出項目に『教育支援基金関係経費』を設け、最小限の予算枠を確保することとする。

3 基金設立発起人の委嘱

基金設立発起人には、歴代の同窓会会長、母校校長その他の教職員、同窓会役員、参与、顧問、各期の幹事、PTA関係者、その他本校関係者に幅広く委嘱することとする。

4 運営管理委員会の機能

運営管理委員会は基金の支出案件を審査し、支出の可否を決定するとともに、基金の管理に関しチェック機能を果たすものとする。

5 事業報告

基金の運営状況、資金の収支については、総会に報告するとともに広報誌「きずな」に掲載する。

6 実施細則等の決定

この基金の運営に関し必要な細則等は、役員会で決定する。

注記 基金の支出対象として想定されている事項は以下の通り。

- ① 補習授業の講師への謝礼・交通費等の補助
- ② クラブ活動に必要な用具等の購入費の一部補助
- ③ すぐれた実績を挙げた教職員、生徒等の顕彰
- ④ 生徒の対外活動等に要した費用の一部補填
- ⑤ 海外語学研修等のための経費の一部補助
- ⑥ 施設・設備の拡充整備のための補助
- ⑦ その他の教育支援として認められる費用の補助

以上

『教育支援基金』設立発起人（個人名順不同）（2008年5月現在）

「同窓会」 ・城 和裕(高12回)・勝見鈴代(高20回)・高橋一夫(高20回)
 ・佐藤 健(高3回)・森 雅夫(高8回)・石川和寿(高9回)
 ・大久保利一(高17回)・鵜飼明弘(高18回)・板谷方彦(高27回)
 ・浦川伸一(高32回)・真家俊雄(高1回)・鬼沢英雄(高8回)
 ・野田理恵子(高27回)・鈴木陽子(高28回)
 ・佐久間利和(高21回)・石田弘行(高16回)

「参与」 ・山下 章（高9回）・木本恵美子(高29回)・加藤純子(高30回)
 ・本間 寛(高30回)・泉水裕二(高33回)・廣瀬由貴(高39回)

「同窓会顧問」 ・桜間 卓(中1)・中村由美(中1)
 ・鹿島 亨(高4回)・大藪正哉(高4)・高橋 勇(中2回)
 ・林 弘(中2回)

「学校」 ・福本雄吉(校長)・長津美明(前副校長)・宮地みち子(新副校長)
 ・重田美奈子(企画室長)・清水 進(副校長)

「PTA」 ・渡邊 薫(前会長)・草場光宣(新会長)・水島洋子(元会長)
 ・上田昭(元会長高27)・藤井勇治(元会長)

「恩師」 ・東 士(体育)・小山晃三(英語)・滝澤利夫(校長)
 ・手崎政男(国語)・手崎政仁（国語)・寺島政一(英語)
 ・牧野正敏(国語)・水谷英一郎(理科)・小林洋子(教頭)
 ・栃本忠良(校長)・外池武嗣(校長)

恩師のご消息

取材：東先生～小山先生 城(高12)
黒川先生～小澤先生 泉水(高33)

東 士 先生 (S26～S53) 保健体育科(満91歳)
毎日本体操を欠かさず乾布摩擦をされ、サッカーの観戦や旅行を楽しまれています。毎年、青森の酸ヶ湯温泉に春夏秋冬と湯治にご夫妻で行かれています。最近奥様のお怪我で現在はその治療に専念されています。特に白馬村の黒菱山荘の立上げから対岳館の丸山庄司氏との親交が深く、先生にスキーや水泳、サッカーでお世話になった同窓生は数多く、石神井高校の成長を優しく見守っておられます。

小山 晃三 先生 (S32～S39) 英語科
毎朝7時起床夜11時就寝と規則正しい毎日を過ごされています。大病をされましたが、すっかり健康を取り戻され、日帰りの予定でなるべく歩くことを心掛けておられます。今年4月1日には後期高齢者の仲間入りをされて、音楽鑑賞や絵画展に歩を運ばれ、益々お元気なご様子でした。黒菱山荘にもお誘いした事があり、手打ちの信州そばを楽しめました。

黒川裕史 先生 (S55～S63) 社会科
石神井高校より数えて4校目の第四商業に在勤。吹奏楽部の顧問として、また文化祭担当として活躍しているらしいです。あいかわらず、バイクに乗りいろいろなところに行っています。今年こそは黒菱山荘に家族で行こうと計画されているようです。お元気ですが、膝がちよつと痛むとのこと。石神井での経験が、今の教員生活にも活かしているとのことでした。

柴田順三 先生 (S52～H1) 体育科
ご退職されて3年が経ちました。今は特に仕事はせず、自由を満喫されているようです。仕事といえば、近所にお住まいのお孫さんのお迎え(週4回)ぐらいとのこと。ちゃんとおじいちゃんやっているようです。練馬区農業塾というものに入塾していて約30m²の農地を借りいろいろな作物を育てているようです。土いじりは最高であるとのこと。バイクで日本一周を考えていて、去年はヶ月余をかけて北海道をまわったそうです。順次、今年は東北と南下していくそうです。最後は四国でお遍路さんで上ガりの予定。相変わらずお元気そうでした。

大月正 先生 (H7～H15) 社会科
石神井の後、羽村高校を経て大山高校へ。大山高校

では、柔道部の顧問となり、4月からは久永先生を校長として迎え、共に柔道の指導をされているとのこと。大いに頑張られている様子です。石神井のときの同期会などに呼ばれて出席されることもあるようです。

佐藤要介 先生 (H6～H15) 体育科
この春、八王子北高校から田無工業に異動されました。もちろん、田無工業では野球部の顧問としてご活躍のようです。最近、石神井でクラス担任・野球部・体育祭で関わった教え子の結婚式などに出席することが多くなったようです。

手崎政仁 先生 (～H16) 国語科
昨年ご退職され、特に仕事はされていませんでしたが、9月から3月まで上野高校で講師をされたり、石神井高校女子ハンドボール部の外部指導員として高校生の指導をされていました。その傍ら、趣味の写真撮影を行い、今年は野菜の花のカレンダーを多摩おこしの会より出版するなど、大いに活躍されています。相変わらず、武蔵関あたりでよく飲まれているようです。94歳なるお父様(手崎政男先生)もお元気に執筆活動をされているとのことです。

浅井 康明 先生 (S49～S62) 数学科
この8月31年間校長をされていた武蔵村山高校をご退職されました。現在は、財団法人数学オリンピック財団に週3回勤められていて、数学オリンピックに日本代表として6人の学生を送り出すための仕事をしているそうです。お二人の息子さんも結婚され、家では奥様と二人、今後はゆづり旅行でもと考えているとのこと。先日、5年ぶりに武蔵村山高校のゴルフ大会(浅井杯)に出場したところ、何と160もたたいてしまったそうです。本人曰く『人の倍打つことができ、元は取った』。

佐藤 良徳 先生 (S60～H10) 理科
現在、昨年開校した東久留米総合高校に勤務されています。4月から学年の担任となり、何かと忙しい様子。学校のまわりには自然も多くあるよい環境で、人工芝のグラウンドです。総合高校なので、バイオテクノロジー・環境という変わった科目があり、担当しているそうです。時間を作ってのんびり山登りでも行きたいとのこと。黒菱山荘で会いたいですね。

小澤 優子 先生 (H10～H14) 体育科
 この春、第五商業高校から異動されて南平高校に勤務。石神井と同じように運動が盛んな学校で、女子バスケットボールの顧問をしているそうです。部活の指導では、生徒と一緒にコートを走り回り、ご自分のクラブチームでも、はりはりバスケットボールをやっているとのこと。『まだまだ、若い!』（本人談）ドーム型屋内プールが他の学校にはない自慢。

同期会にお招きして伺いました

20回生同期会 (08.2.23) 取材：勝見（旧姓 別所）

- 長島先生：大学を卒業して初めて教壇に立ったのが石神井で、とても印象深い学校であり、生徒の皆さんです。今は、現役を引退してゆづり人生を楽しんでいます。
- 根上先生：年齢的なこともあって出不精になり、あまり人前にでなくなっているのですが、ご丁寧な案内状頂いて、皆さんに会いたくて出席しました。
- 保母先生：皆さんと過ごした時期は、黒菱山荘に春はトレッキング、冬はスキー教室と楽しい思い出がいっぱい。現役を引退して、ゆづりやっています。
- 水谷先生：年をとって、出不精になっているけれども、石神井の生徒の会には是非出席したくて、頑張ってやってきました。
- 相田先生：クラス担任はしなかった学年の皆さんですが、懐かしくて出席しました。今は、いろいろな会に参加して楽しく暮らしています。
- 古川先生：昨年 80 歳になりました。膝痛、腰痛があるものの、2日に一度はテニス3セット継続中です。

同期会で伺った先生方の HISTORY

30回生同期会 (07.11.10) 取材：加藤（旧姓 石水）

- ・外川誠 先生(物理) 1D・2A・3B 担任
 大泉北高校→大泉高校（65歳定年退職）→私立通信制単位高校（72歳ご退職）
- ・豊田一男 先生(英語) 1C・2F・3C 担任
 日比谷高校→筑波大学付属高校→筑波短期大学→筑波女子大学→筑波学院大学（現在）
- ・中山雅夫 先生(数学) 1A・2B・3D 担任
 富士高校→日比谷高校→昨年4月～麴町学園女子中学高等学校（嘱託）
- ・浅井康明 先生(数学) 1E・2E・3E 担任
 多摩工業高校→西高校→福生高校（教頭）→武蔵村山高校（校長）4月～
- ・保母宗男 先生(保健体育) 1F・2H・3F 担任
 富士高校（91年定年退職）→武蔵野北高校（嘱託01年まで）その後テニス三昧
- ・中村志江 先生(国語) 旧姓：郷戸 1G・2I 担任
 桜水商業高校（10年）→駒場高校（7年、病気退職）→西高校（嘱託1年、途中4ヶ月病欠）西高校、三鷹高校（講師2年）→立川高校（講師、3年目）
- ・竹内徳子 先生(生物) 旧姓：山田 1B・2G 担任
 北園高校→小石川高校（最後）
- ・門脇一生 先生(倫理) 石神井に25年、現在は公民館・町会活動 84才
- ・水谷英一郎 先生(生物) 大泉北高校（嘱託5年）
- ・古山光久 先生(保健体育)
 小石川高校→水元高校→南（定時制、副校長）→城東高校→大泉北高校→墨田川高校→足立高校→4月～荻窪高校(校長)

2008年度 教員の異動

転出（お世話になった先生）

副校長 長津 美明	芸術高校校長
国語科 上野 和彦	東村山高校へ
公民科（政経）田中 一生	武蔵野北高校へ
理科（物理）井上 英和	一橋高校へ
保健体育科 新堀 陽子	大泉高校へ
保健体育科 久保田 敬	多摩工業高校へ
英語科 米島 薫	九段高校へ

嘱託退職

数学科 後藤 健児
 英語科 松本 洸士

転入（新しくいらした先生）

副校長 宮地 みち子	世田谷泉高校より
国語科 古屋 明子	板橋高校より
国語科 井口 衛	新規採用
理科（物理）神庭 郁	篠崎高校より
保健体育科 中馬 喜久子	府中西高校より
保健体育科 横田 智雄	国分寺高校より
英語科 廣瀬 由貴	武蔵村山高校より

2008年定期総会議案

同窓会総会

日時 2008年6月14日 午後1時より

場所 母校3階視聴覚教室

議題 第1号議案 2007年度事業報告書
第2号議案 同上の収支決算報告及び会計監査報告
第3号議案 2008年度事業計画案
第4号議案 同上の収支予算案
第5号議案 本件については6,7ページに掲載

第1号議案 2007年度事業報告

2007年4月

入学式に会長、副会長出席

役員会開催（総会、きずな発行関係）

5月

役員会開催（きずな発行、総会、新校舎完成祝賀会関係）

きずな発行、母校体育祭に伺う

6月

役員会開催（祝賀会、総会関係）

6月16日、2007年度定期総会を開催し、提出した第1号議案から第5号議案まで、出席者全員異議なく了承された（議案についてはきずな66号に掲載）。総会後簡素な懇親会開催

7月

役員会開催（祝賀会関係）、母校、会議室にて

8月

役員会開催（祝賀会、校歌祭関係）

新校舎完成祝賀会三者協議会開催

9月 母校文化祭に伺う

10月

校歌祭に参加（現役、OB吹奏楽部、役員、同窓生30名参加）終了後反省会開催

役員会（祝賀会関係）

新校舎完成祝賀会三者協議会開催

黒菱山荘に校長他、母校先生方7名をお連れする

11月

役員会開催（祝賀会関係）

新校舎完成祝賀会三者協議会開催

12月

新校舎完成祝賀会開催（出席者00名）

記念の図書カードを作成し、来賓、在校生（定時生含む）職員及び次年度新入生に贈呈

1月（2008）

役員会開催（教育支援基金、他校同窓会との交流会関係）

2月

役員会開催（教育支援基金、他校同窓会との交流会関係）

3月

卒業式に会長、副会長出席し挨拶（卒業生に記念の紅白饅頭贈呈）

他校同窓会との交流会開催

（仮称『同窓会の輪』出席校は立川、大泉、井草、武蔵丘、豊多摩

役員会開催（きずな、教育支援基金、総会関係）

第2号議案

2007年度収支決算報告及び会計監査報告

第3号議案 2008事業計画（案）

2008年4月

入学式に会長、副会長出席

（新入生に新校舎完成記念図書カード贈呈）

役員会開催（きずな発行、総会、教育支援基金関係）

5月

三者（学校、PTA、同窓会）協議会の歓送迎会開催

役員会開催（総会、教育支援関係）

きずな発行

6月

総会及び簡素な懇親会開催

7月

役員開催（教育支援基金、他校同窓会との交流関係、文化祭関係）

9月

役員会開催（他校同窓会との交流、校歌祭参加、文化祭関係）

文化祭に参加

10月

校歌祭に参加（現役、OB吹奏楽部、役員、同窓生40名参加予定）終了後反省会開催

他校との交流会（仮称『同窓会の輪』）開催

12月

役員会開催（来年度事業計画関係）

2009年2月

役員会開催（決算、予算、他校同窓会との交流関係）

3月

卒業式に会長、副会長出席

（卒業生に記念の紅白饅頭を贈呈）

役員会開催（きずな、総会関係）

この他、必要に応じて役員会、打合せ等を開催することがある。

第4号議案 右表類参照

第5号議案については本誌6ページに掲載しています。

黒菱基金の残高は、本年3月末現在で、¥11,756 となっています。
本年度は¥10,000のご送金を1件だけいただきました。

画像データ貼り付け

会員からのおたより

泉水裕二 (石神井高校教諭) 高33回

昨年度、石神井高校に異動してまいりました。教科は理科の化学を担当しています。部活では、女子バレーボール部の顧問となりました。昨年の入学式後すぐ体育館が改修に入り慣れないバレーでの部活ジプシーとなりましたが、近隣の学校の協力や同窓会からの外部施設使用に対する支援があり、何とか乗り越えることができました。ただ、今年度はグラウンド改修が12月までありますので、外で活動する部活は外部施設を利用することに不便をかけてしまいます。

プレハブ校舎からの引越は少し大変でしたが、今では新しい校舎にも慣れ、快適な生活を送っています。ただ、化学室にはエアコンがないので夏の暑さがどれ位なのかちょっと不安です。

同窓会では、黒菱山荘委員会の副委員長をしており、

年2回の現地での会合や保護者の黒菱ツアーなどで長野県白馬村まで足を伸ばしています。皆さんもご存じの通り、数年前に黒菱山荘は屋根をふき替え、頭を悩ませていた雨漏りからも開放されました。施設も良くなり、また母校の教員として戻ってきたので、山荘の有効利用を考えています。以前のような学校行事としての利用は無理ですが、夏休みに有志の生徒達を連れて八方尾根の良さ・山荘の良さを経験させたいと思っています。また今年度は、スキー部の顧問となったので、年末の山荘を利用した合宿を引率する予定です。いろいろなことで、白馬村に足を運ぶ回数は少し増えそうです。

今年度は、英語科に同窓生の広瀬さん(39期)を迎え一層心強く感じています。石神井高校がより活性化するように力していきたいと思っています。

牧野先生のお教え 佐藤 健(高校第3回)

牧野正敏先生の本校ご着任は昭和21年、終戦翌年のことで、早大ご卒業直後であった。貫禄のある年輩の先生が多い中で、ピカピカの若先生が現われたのだから、旧制中学2年生の我々が「お兄ちゃん」と親しみを感じたのも無理はない。だから、「牧野さん」である。これが先生の「仇名」であった。六十年後の今でも、同期生の間では「牧野さん、お元気かしら」と言いあっている。「図書部」というクラブ(現在の図書館)があって、先生が部長をされていた関係で、私には教室での授業より、この課外活動でのお付き合いの方が多かったように思われる。

まず、ご自宅に頻繁に出入りした。中野駅近くにお住まいがあって、我々は「中野会議」と称していた。当時貴重だったお菓子を頂戴できるから、半分はそれが目当てでもあった。先生のお宅で初めてテープレコーダーを見たときの驚きは忘れられない。オープンリール式の大きな箱型のもだったが、すぐに録音ができ、巻戻せば、たった今話したことが再生できる仕組みに目を見張った。

当時、先生方には宿直があり「宿直室」という部屋があった。牧野先生が当番の日、我々はここに集り夜遅くまで談論風発したものである。と言えは格好いいが、ここで麻雀の手ほどきを受けたのが思い出の一つになってい

る。今なら、教育委員会で問題視され先生のクビが飛ぶような「事件」となるらしいが、自由闊達な時代であった。

教壇の先生を語らねばならない。先生から『奥の細道』を教わった。冒頭の「月日は百代の過客にして、・・・」の「百代」は「はくたい」と読むのだと言われて、私は新鮮な驚きを感じた。だが、何と言っても志賀直哉の『小僧の神様』である。先生に読後感を問われたとき、私は「読みやすい文章で、小僧の気持がよく分かった」というような平凡な答え方をした。

先生はこれに不満のご様子で、作者の目が気にならないかと言われる。私には「作者の目」の意味が分からなかった。先生は「この小説は、金持ちが貧しい小僧を救っているように見えるが、作者が小僧を冷たく見下していることに気がついてほしい。作者に暖かく人を見る目がなければ上質な作品とは言えない」と仰った。

私はハッとされた。なるほどそうなのか。単なる名文では、文学とは言えないのだ。大袈裟に言えば目からウロコ。あの瞬間に、ものごとに対する見方が変わった。まことに「仰げば尊し、我が師の恩」である。

広瀬 由貴（石神井高校教諭） 高39回

石神井高校この4月に英語の教員として赴任してきました、高校39期卒業生の広瀬由貴（ひろせよしたか）と申します。

高校時代は3年間吹奏楽部に所属し、体育祭では応援団もやり、高校生活をエンジョイしました。母校の教壇に立つことは夢ではありましたが、こんなに早く実現

するとは思っていませんでした。

異動してきてすぐの学年担任で、多忙を極めていますが、泉水さんという先輩もいらっしゃいますので、この伝統ある石神井高校にさらなる新風を巻き起こすべく、いろいろなことにチャレンジして、新しい歴史を作っていければと思っております。

短信 那須信彦 高3回

卒業して57年、いまでも鮮明に思い出すことがあります。それは昭和25年秋、山田浅蔵先生、井草高校の國藤ちか子先生のご指導のもと、我が石神井、井草混声合唱団が関東合唱連盟主催、朝日新聞社共催の合唱コンクールで総合優勝（男声、女声、混声）を成し遂げたことです。（於、日比谷公会堂）

この合唱団は卒業後もOB合唱団（ISOB合唱団、不

尽会合唱団）として存続し、その流れはさらに現在、混声合唱団アミーチ・デル・カントにその痕跡を留めております。10年程前までは井草高の仲間4人を含む6名が在籍しておりましたが、いまは、私と奥山元保君（高校3回生）の二人だけになりました。気が付けば合唱歴60年を超える永き道のりでした。これからも歌い続けられる健康を保ちたいと念願しております。

掩体壕、パンフで案内 調布飛行場

調布飛行場（三鷹、調布、府中市）周辺に残る戦闘機の格納庫「掩体壕（えんたいごう）」のパンフレットができた。掩体壕が保存されている都立武蔵野の森公園を管理する野川公園サービスセンター長の秋山奉由（ともよし）さん（高3回）が中心になって作った。3月末に退職した秋山さんは「掩体壕は平和の語り部。パンフが戦争遺跡への関心を深める『置き土産』になれば」と期待している。

掩体壕は1944（昭和19）年、本土決戦に備えて軍用機を空襲から守るために造られた。調布飛行場周辺には、屋根のある「有蓋（ゆうがい）」（コンクリート製）と、屋根のない「無蓋（むがい）」（土塁と竹製）が約30基ずつ短期間に完成した。が、今では三鷹と府中両市に計4基が残るだけだ。

秋山さんが掩体壕を知ったのは30年ほど前。府中市の甲州街道から見える白糸台の掩体壕に興味をもち、写真を撮りに出かけたこともある。

99年から都公園協会に勤務。武蔵野の森公園になる前の苗木畑で、木立に囲まれた掩体壕の存在に気づいた。「こんな所にも戦争遺跡があったのか」。06年4月に野川公園センター長として赴任。2カ月後、公園に残る掩体壕2基を都が保存整備して一般公開した。

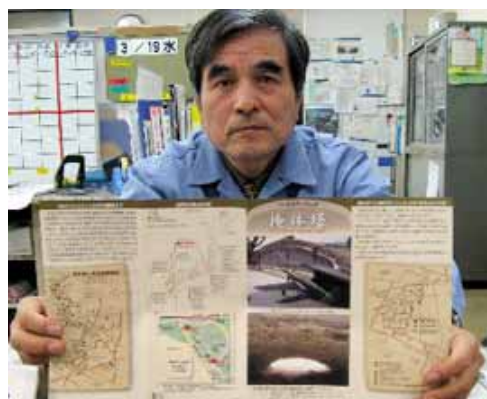
「持ち帰れる資料はないの?」。見学者からこんな要望を聞き、パンフレットの構想を温めていた。協会の予算がつか

野中雄介（高3回）

き、昨秋から「調布飛行場の掩体壕を保存する会」や郷土史家、調布市郷土博物館学芸員らの協力で作製に取り組んだ。

完成したパンフは四つ折り。掩体壕の説明や調布飛行場の歴史のほか、同飛行場にあった掩体壕など施設の配置図（1945年春当時）に赤字で現況を加えた資料や、全国に現存する掩体壕約100基の場所を示した地図も添えた。パンフには、破壊された軍用機と奥に見える掩体壕の写真も載せた。終戦直後の1945年10月に府中で撮影された、敗戦を象徴する貴重な資料だ。

7000部発行。野川公園サービスセンターで無料配布している。問い合わせは同センター（0422-31-6457）



▲掩体壕のパンフレットと作製した秋山奉由さん
＝三鷹市大沢6丁目

会員からのおたより

日本の技術のゆくえ（IT技術に関連して）

大久保利一（高校17回）

昭和40年（1965年）に卒業し大学で4年、大学院で余分の勉強をして昭和46年に社会人となりました。爾来IT産業にどっぷりとつかって仕事をしてきました。昭和40年50年代は、日本のIT産業を米国にキャッチアップする技術者集団の一員として、60年代と平成一桁は、通信事業でのオペレーティングシステムの研究開発などに携わってきました。コンピュータに触れたのは、昭和40年まだ真空管のコンピュータががんばっている時期でありました。その後、トランジスタ、IC、LSIそしてマイクロチップの世界となり、大型のコンピュータから、ミニコンピュータ、パーソナルコンピュータから情報家電のような身近な機器へのコンピュータの組み込みといった形に急速に変化してきました。

もちろん世の中も、バブルの崩壊（1990年代）、ITバブルも個別に崩壊し（2000年）、携帯電話の爆発的な普及といった事も起こりました。この間サービス競争を支えるため過剰なソフトウェア開発競争がITビジネスを3K（危険、きつい、汚い）、6K（暗い、帰れない、結婚できない）産業と言わしめるような状況を作り、若い人たちが、IT産業に入ってこなくなってしまいました。

しかしながら“物づくり国家”である日本は、製造業を中心として、これまで世界を引っ張ってきた部分がありました。現在は物の付加価値を与えるものがソフトウェアになってきています。ソフトウェアはこれまで米国に後れを取り、オペレーティングシステムを始め、多くのソフトウ

エアパッケージなどが、米国や欧州のベンダーに先を越されてきていました。しかしながらコピキタス時代といわれる昨今の代表的な情報家電などでは日本は米国、欧州に先んじた位置にいます（米国には少なくともテレビを作っている工場は無いはずです）これらを引っ張るのは組み込み型ソフトウェアと言われる一連のソフトウェア製品で、これがサービスとしての付加価値を作り上げているのです。

現時点では日本が多少先行していますが、韓国や台湾がすぐ後ろに控えています。また、マレーシアやフィリピン、中国と言った開発途上国やその次につけていくベトナム、カンボジアと言った国も虎視眈々と日本を狙っています。

それらの国では、若い学生たちが、目の色を変えて勉強しIT産業を目指して勉強をしています。彼等の母国にはまだまだ産業基盤が無いため、日本で仕事をして技術を身に付けたいと、多数の技術者、技術者の卵が日本での仕事をしたいと留学してきています。

日本の学生がIT産業を嫌っているうちに、折角日本が先陣を切っている分野においても、二番手三番手の国に追い越されてしまうことになりそうです。

日本の技術競争力を確保し続けるためにも、産業の米となる（昔は製鉄産業がそう言われましたが）IT産業を引き継いでいただきたいと思います。

新しい校舎に新しい未来が

渡邊 薫（平成19年度PTA会長）

1月に新校舎に移って約4ヶ月。生徒達もすっかり新校舎での生活にも慣れ、のびのびと学校生活を送っている様子が見えがえします。

環境の整った新校舎での生活は、いっそう学業に、部活動にと力を発揮してくれる事と思います。また今年も入学希望者も多く、石神井高校の未来がとても楽しみです。

PTAとしましても、教職員の方々や生徒達とも交流を深め、充実した学校生活を過ごせるよう、協力していきたいと思っております。

最後になりましたが、昨年12月の「新校舎祝賀会」が盛大に開催されましたのも、同窓会の皆様の暖かいご支援によるものと深く感謝しております。PTAを代表いたしまして、改めてお礼申し上げます。

同期会報告

★同期会開催のお知らせは 18 ページに掲載

20回生卒業40周年記念同期会 勝見鈴代（高20回・旧姓別所）

『卒業してもう40年かぁ～皆で集まって楽しく同期会やろうか』

12月の新校舎完成祝賀会に出席した20名の同期、祝賀会終了後の飲み会での話。トントンと話が進み

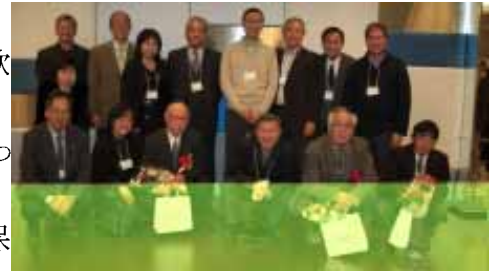
2月23日土曜日13時30分から「ホテルニューオータニの間」と決まった。

当日は、古川先生、根上先生、長島先生、水谷先生、相田先生、保母先生が出席してくださいました。

卒業以来初めての人、卒業30周年記念同期会依頼10年ぶりの人など、約70名の同期が集まった。

中央のスクリーンには、卒業アルバムが映しだされ懐かしさいっぱい!! 最後に、私達の時代、体育祭名物のフォークダンスの予定だったが、男子50名、女子20名では無理のため中止。しかし何時までも、華やいた会は楽しく続いていた。その後、2次会、3次会と夜遅くまで会が続いたことは言うまでもない。

往復はがきを激安で作成してくださった先輩の森さん（8回生）、夜遅くまで住所シール貼り手伝ってくれた、同期の山崎高志君、曾田みふゆ（旧姓川上）さん、スクリーン映像担当してくれた同期永澤 清君に心から感謝しています。同期で、黒菱山荘に行こう! なんて案もあって、元気印の20回生の皆です。



30回生同期会報告 加藤純子（旧姓 石水） 高30回

本校旧職員（1985年～1998年） 現；日比谷高校 保健体育科教諭

2007年1月0日（土）ホテル・メトロポリタン・エドモント クリスタルホールにて、30回生の第二回同期会を開催致しました。

第一回の1989年1月1日以来8年ぶり、卒業して30年目の同期会は、107/407名の参加で大いに盛り上がりました。同ホテル内での二次会も67名の参加、日付が変わってからの三次会も多くの参加者で賑わいました。

2年前の2005年1月に発足した発起人会は、当日まで6回の会合を開き、同期会後も有志で3回の集まりを持ち、二年後の同期会開催を目標に親睦を深めておきます。

昨年未までに318名の住所・連絡先・消息が判明しておりますが、変更・登録・情報提供につきましては、「石神井高校30回生ミニきずな」<http://8609.teacup.com/nakamura/bbs> または「mixi 石神井高校30回生プチきずなコミュニティ」までご連絡下さい。

30回同期会 写真待ち

27回生同期会報告 板谷 方彦（高27回生）

27回生の第二回同期会を、2007年8月25日（土）霞ヶ関ビル東海大学校友会館にて開催しました。

2年前に開催した第一回は100名を超える大盛況でしたが、今回も80名を越す参加で大いに盛り上がりました。当日は古川先生、星野先生、花井先生がお元気な姿でご出席をいただき、夜の二次会からの参加者も多く、三次会も多くの参加者で遅くまで賑わいました。



新校舎完成！！皆でお祝い！！

勝見 鈴代（同窓会副会長・旧姓別所 高校20回）

12月2日日曜日、新校舎落成披露・記念祝賀会が開かれた。当日はお天気に恵まれ、ご招待、学校関係者、PTA関係者、同窓会会員など約300人が集まった。それぞれ新しい校舎を見学し、体育館でのブッフェパーティとなった。

セレモニーに先立って、同窓会顧問であり、関町町会長の高橋 勇氏が世話役を務める「無形文化財 関町囃子」が始まった。関町囃子についてお話をしてくたり祝賀会が賑やかにスタートした。

セレモニー第1部は校長先生の挨拶、来賓の方々、PTA会長、同窓会長祝辞、感謝状の贈呈があり乾杯。セレモニー第二部でいよいよ美味しいブッフェがスタート。



豚の生ハム、お寿司、おそばなど等、会場は美味しい匂いでいっぱいになった。

皆お目当てのお料理が並ぶメインテーブルへ殺到した。揚げたての穴子、2日間煮込んだハヤシライス、イペリコ

同窓生によるライブコンサートは、同窓生を中心としたバンド“ジャムタコ”（31回生3名）によるオリジナル曲演奏、野



田理恵子セシリアさん（27回生）によるソプラノ独唱、“ザフォーエバー”（20回生のドラマ参加）によるビートルズナンバーの演奏と大いに盛り上がりを見せた。会もそろそろ終盤に差し掛かるころ、白馬村にある本校の黒菱山荘を管理して下さっている対岳館の丸山徹也氏、同地でペンションを経営する石田弘行氏（16回生）が遠くから駆けつけて下さり、白馬村が映画の舞台になったお話、黒菱山荘の現状などをお話して下さった。



最後は、全員で校歌を熱唱して楽しい祝賀会は無事に閉会した。

第14回 東京校歌祭へのお誘い

本年も、同窓会行事として、第14回東京校歌祭に参加いたします。日比谷公会堂の大きな舞台上、我が「石神井高校」の校歌を歌いましょう。

ブラスバンドの伴奏の参加も予定しています。数多くの参加をお願い致します。

*日時 平成18年10月6日（土）

13:00から開会式

（石神井高は6校中9番目）

*集合：14:00 入口石神井高受付へ

*会場 日比谷公会堂

*問合せ 石神井高校同窓会ホームページ

または 高橋一夫

FAX03-3991-3586 まで



黒菱山荘便り

黒菱山荘委員会委員長 浦川 伸一（高校32回生）

毎年このきずなに黒菱山荘の記事を載せていただいております。大変感謝しております。

今年は、ひとつ大きなニュースがあります。昨年4月に山荘委員会副委員長のB3期泉水裕二さんが石神井高校の化学科教員に着任され、昨年より学校と同窓会、そして山荘の架け橋になってくれています。泉水さんの企画により、今年の8月に石神井高校生徒向けの山荘教室を復活する企画を進めております。学校主催による山荘教室は1985年に中止となり、以来23年間、公式な生徒募集は行ってきませんでした。今年は、同窓会・黒菱山荘委員会の主催という形ではありますが、職員会議にも諮っていただいたうえで正式に生徒への参加者募集を行う予定です。今年は久しぶりの募集ということもありますので、少人数であってもツアーを実施し、生徒そして教員のみなさんにこの貴重な施設の理解を深める機会をご提供したいと考えています。

この十数年、山荘利用者は大して減少することもなく、コンスタントに年間250～300泊前後のご利用をいただいております。同窓会からの運営予算も継続的にいただいておりますが、宿泊収入で費用の半分程度はまかなっております。安定した運営が実現できています。

最近の利用時期がかなり集中しており、利用形態別に分類すると、以下の通りとなっています。

- ① 同窓生によるスキー利用（年末年始、スキーシーズンの週末）
- ② 同窓生による夏山利用（8月）
- ③ PTAのみなさんの夏山利用（7月：星をみる会）
- ④ 石神井生の合宿（冬季 スキー部合宿）
- ⑤ 山荘委員会ツアーへの参加（2月連休）

利用者カテゴリーとしては、以下の通りです。

- ① 同窓生
- ② PTA
- ③ 教職員及び教職員OB
- ④ 現役石神井生（宿泊費無料）
- ⑤ その他一般（石神井同窓生同行による一般者の利用）

このように、利用いただいている方々もかなり多岐に渡っており、宿泊者数も依然多い状況が継続していることは大変喜ばしいことです。1961年に完成して47年を経

ているため、老朽化を心配なさる方々もいらっしゃるのですが、数年前の大規模修繕をはじめとし、随時行っている小規模な修繕工事、及び山荘委員会メンバーによる定期的なメンテナンスにより老朽化を防いでいます。初めて来訪なさるほとんどの方が、施設のきれいさに驚かれるようです。

昨年は、老朽化が目立った玄関及び前室を、基礎工事からやり直し、大幅に改装いたしました。地元の金森建設の方と毎年点検を繰り返していますが、今年の点検では、当面修繕すべき箇所はありませんね、とお墨付きをいただいております。石神井関係者の皆様にも安心してお使いいただける施設であると考えています。

また利用にあたって、多くの方々が気になさるのは、食事と入浴です。まず食事ですが、自炊をしていただくこととなりますが、電子レンジ、湯沸かし器、LPガスなどを完備していますので、あまり不自由は感じません。入浴は、地元白馬村が温泉ということもあり、安価な公衆浴場が数箇所あり、地元八方温泉の露天風呂めぐりも山荘利用者の楽しみの一つとして定着しています。

ゴールデンウィークやお盆、年末年始など、日本人の多くが観光に出かけるシーズンに、皆さんは毎年どこに行こうか悩まれていますか。白馬はいいですよ。誰もが、その空気のおいしさに気がつくはずですよ。山荘に泊まらなくても、地元の宿泊施設をご利用いただいてもいいですし、観光施設が目白押しで渋滞や混雑の中であくせくするレジャーはもうやめて、美しいアルプ스에囲まれた白馬でのゆったりした余暇を楽しまれてはいかがでしょうか。ご旅行の相談は、山荘委員会（電話かホームページ上のメールアドレス）か、化学科の泉水先生まで、お気軽にどうぞ。



山荘委員会ホームページ

<http://pws.prserv.net/jpinet.urakawa/>

同窓会活動にご参加ください！

同窓会イベント

石神井高校同窓会は、年間を通して活動しています。今年は次のような日程で各行事を行います。同窓生の誰でも参加できるイベントですので、ぜひご参加ください。

- ・ 同窓会定期総会 ・ 懇親会 6月14日 本校にて
- ・ 東京校歌祭 10月4日 日比谷公会堂にて

会費を払おう！！

母校発展のために、テント、パソコンの購入、新校舎完成までの運動場確保資金援助、スリッパ新規購入、新校舎完成記念祝賀会、記念図書カード、卒業生への記念紅白饅頭贈呈、きずな発行、名簿管理、総会と親睦会の開催など等に、同窓会費は、大切に使われています。

毎年、5月に広報誌『きずな』と一緒に会費の納付書が同封され、郵便局かコンビニエンスストアで送金することができます。年間2,000円で、さかのぼって支払う必要はありません。

母校発展の為に、ぜひ年会費の支払いをお願いします。



新校舎落成を記念して作成した図書カード

ホームページ制作にご協力ください

本校同窓会では1997年という早い時点でホームページを開設し、同窓生の広報に役立てて参りました。時代の変化とともに、サーバーは大容量化し音楽や映像送信にも対応できるようになってきておりますが、ページのコンテンツ管理というソフト面での対応が現状では追いついておりません。18歳から80歳台までの同窓生に対応し、重層的な構成も必要だと思われまます。これまでにホームページを作成した経験をお持ちの方にかぎらず、アイデアやマンパワーをご提供いただき、一緒に石神井同窓会サイトを運営しませんか？同窓生でご協力いただける方を募集しております。

同期会開催のお知らせ

13回生の同期会

9月20日午後 時～4時、青山の「あおしま」で開催します。会費は6000円です。幹事は野中雄介です。

108-0074 東京都港区高輪 1-11-2 Phone / 03-3441-1530 Fax / 03-3441-1559 携帯 / 090-3420-0179

50期卒業10周年同窓会

日時 6/21(土)19:00- 場所 新宿(詳細は追って連絡します。)連絡先 澤村 (sawamura@kxa.biglobe.ne.jp)

備考 参加される方は、澤村まで必ずご一報頂けます様、よろしく申し上げます。連絡される際は、クラスと住所、氏名、連絡先(メール)を5月中までにお送り下さい

石神井高校第19回の同期会

1. 日時 平成20年11月15日(土)18:00～

2. 場所 (第一候補)新宿ワシントンホテル(仮予約)

3. 会費 未定(最大10,000円まで)

4. 参加目標人数 120名

5. その他 ・担任、教科担当の先生を呼ぶ/同期の仲間によるバンド/その他

出欠確認は、8月ごろに予定しております。連絡係 末広 彰 090-1398-3892 a.suehiro-2911@s5.dion.ne.jp

現役石神井生の あるばむ



現役石神井生から

写真でご挨拶!

体育祭実行委員会（左上）スキー合宿参加者（中上）、生徒会執行部（左）、標準服のモデルをしていただいた谷内雷君と平松越百（こすも）さん。

やっと開催できました！！ 仮称『同窓会の輪』

同窓会副会長 勝見 鈴代（高20回・旧姓別所）

何年も前から、他の高校の同窓会と交流して、情報交換したい・・・と思っていた。

特に、同窓会に入会することが『任意』となった時は、必ず他校との交流をして、お互いに力を合わせる方向性を考えなくては行けないと強く思うようになった。しかしいつも、役員会で話し合われながら、なかなか実現できないまま2年がすぎている。

今回のきっかけは、新校舎落成記念祝賀会の時。以前より少し多少交流していた大泉高校、校歌祭関係の立川高校、豊多摩高校などに祝賀会の招待状をお出したところ、快くご出席頂いたということから。

その会場で、『同窓会の交流会』の話をしたところ、「是非やりましょう」と言うことになり、幹事は、言い出しっぺの我が石神井高校同窓会と決まった。

始めの一步は、大泉、井草、豊多摩、武蔵丘、立川、富士そして石神井の7校に呼びかけを行った。そして3月8日土曜日・・・この日はどの高校も卒業式だったが午後3時から会は始まった。

自己紹介に始まり、各校同窓会の現状（同窓会への加入率、会費の納入実情、学校との連携、役員若返り、その他活動状況）を報告しあった。

各校のお話が続につれ、どこも同じような悩みを抱えていることがわかり、またお互いに参考になることが多くあり、有意義な会となった。結局どの校も、他の高校同窓会と交流したいと考えていたようで、大変喜んでいただける結果となった。

暫くの間は、石神井高校同窓会が幹事役となって、同窓会の輪を広げていくことで全員一致して、和やかに会は終了した。次回は秋の予定。



井草、大泉、立川、豊多摩、武蔵丘、石神井の面々（残念ながら、富士高校同窓会のご都合悪く欠席）



2008年4月22日撮影(P20A)



2000年7月撮影写真

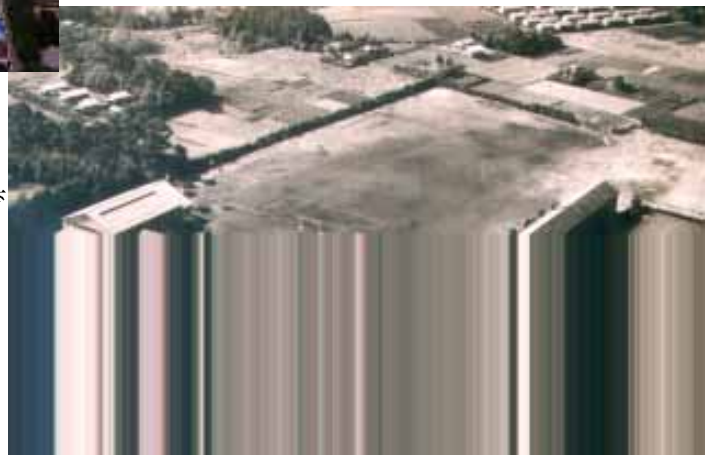


番外：昨年までの
仮校舎(P20C)

編集後記

本年の「きずな」のポイント記事は、新校舎のご紹介と、新しく計画している「都立石神井高校教育支援基金」のふたつです。

校舎については、「百聞は一見に…」ということで、今回は飛行機を飛ばして航空撮影を行いました。写真はともかく、テキスト量が多く、昨年度にシェイプアップしてもらったボリュームも、またまた元に戻ってしまいましたねえ…



1955年撮影写真

都立石神井高校同窓会誌 「きずな」 57号

発行 2008年（平成20年）5月

発行人 同窓会長 城 和裕

発行所 都立石神井高校同窓会 東京都練馬区関町北4-32-48

印刷 株式会社文明社

編集担当 板谷方彦（高7回）
佐藤 建（高回）

本年は同窓会費の振込用紙に加えて、「石神井高校教育援助基金」への振込用紙も同封しておりますので、それぞれお間違いのないようにご利用ください。